

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Ann Plast Surg 58(2): 182-185, 2007.	Free jejunal transfer for patients with a history of esophagectomy and gastric pull-up.	Suga H, Okazaki M, Sarukawa S, Takushima A, Asato H:	形成外科学
J Reconstr Microsurg 23(4): 213-218, 2007.	One-segment double vascular pedicled free jejunum transfer for the reconstruction of pharyngoesophageal defects.	Okazaki M, Asato H, Okochi M, Suga H:	形成外科学
Scand J Plast Reconstr Surg Hand Surg 41(2): 59-64, 2007.	Secondary reconstruction of the eye socket in a free flap transferred after complete excision of the orbit.	Miyamoto S, Takushima A, Asato H, Yamada A, Harii K:	形成外科学
J Reconstr Microsurg 23(5): 243-249, 2007.	Reconstruction with rectus abdominis myocutaneous flap for total glossectomy with laryngectomy.	Okazaki M, Asato H, Takushima A, Sarukawa S, Okochi M, Suga H, Harii K:	形成外科学
Plast Reconstr Surg 119(4): 1223-32, 2007.	Analysis of salvage treatments following the failure of free flap transfer caused by vascular thrombosis in reconstruction for head and neck cancer.	Okazaki M, Asato H, Takushima A, Sarukawa S, Nakatsuka T, Yamada A, Harii K:	形成外科学
J Biol Chem 282(28): 20407-20415, 2007.	Optimal combination of soluble factors for tissue engineering of permanent cartilage from cultured human chondrocytes.	Liu G, Kawaguchi H, Ogasawara T, Asawa Y, Kishimoto J, Takahashi T, Chung U, Yamaoka H, Asato H, Nkamura K, Takato T, Hoshi K:	形成外科学
日本シミュレーション外科学会誌15(1-2): 7-13, 2007.	小耳症における術前評価としての三次元CTの利用。	沖 正直, 朝戸裕貴, 鈴木康俊, 内藤 崇, 加地展之, 三苫葉子, 加我君孝:	形成外科学
形成外科 50(8): 877-885, 2007.	上顎癌切除後の二次変形の治療-再建材の選択-。	朝戸裕貴, 鈴木康俊, 菅 浩隆, 岡崎 睦, 多久嶋亮彦, 波利井清紀:	形成外科学
形成外科 50(8): 895-903, 2007.	上顎癌切除後の頬部皮膚欠損の二次再建-Tissue expansion法による方法-。	上田和毅, 梶川明義, 鈴木康俊, 大河内真之, 広瀬太郎, 浅井笑子, 阪場貴夫:	形成外科学
頭頸部癌33(3): 394-399, 2007.	遊離空腸パッチ移植を用いた再建: 90度回転した方向での移植法。	岡崎 睦, 朝戸裕貴, 去川俊二, 大河内真之, 菅浩隆, 多久嶋亮彦, 朝蔭孝宏, 中尾一成, 二藤隆春, 木村美和子, 平野浩一, 海老原 敏, 波利井清紀:	形成外科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Facial N Res Jpn 27: 196-198, 2007.	下口唇麻痺に対して筋切離術を加えた治療の経験.	鈴木康俊, 朝戸裕貴, 福田憲翁, 梅川浩平, 沖正直, 倉林孝之, 上田和毅:	形成外科学
Gastroenterol Endosc 49: 324-334, 2007	小腸用カプセル内視鏡の日本人における多施設共同研究報告—原因不明消化管出血を中心に—	中村哲也, 荒川哲男, 千葉勉, 日比紀文, 寺野彰 他	消化器内視鏡センター
Laser Therapy 16. 1: 11-16, 2007	Modified photodynamic therapy for gastrointestinal cancers	Nakamura T, Fukui H, Fujimori T, Hiraishi H, Terano A 他	消化器内視鏡センター
Gastrointest Endosc. 66(4): 827-828, 2007.	Pyogenic granuloma of the small intestine.	Shirakawa K, Nakamura T, Endo M, Suzuki K, Fujimori T, Terano A	消化器内視鏡センター
早期大腸癌 11: 266-267, 2007	カプセル内視鏡により経過を観察し得たNSAIDs潰瘍の1症例	中村哲也, 生沼健司, 山岸秀嗣, 平石秀幸, 寺野彰	消化器内視鏡センター
Endoscopy Case Library 268, 2007	Early diagnosis and successful treatment of small intestinal carcinoid tumor: useful combination of capsule endoscopy and double-balloon endoscopy	Yamagishi H, Oinuma T, Hiraishi H, Terano A, Fujimori T, Nakamura T 他	消化器内視鏡センター
医療薬学	PETセンターホットラボにおける線量率分布と従事者の被ばく線量低減の工夫	小曾戸圭子, 大森光治, 伊藤好夫, 柴田秀郎, 村上康二, 高橋克彦, 巽伸一郎, 倉橋正浩, 越川千秋	薬剤部

計 277

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 北 島 敏 光		
管理担当者氏名	庶務課長 影 山 善 久	医事保険課長 渡 邊 栄	
	診療記録管理部 河 合 輝 道	医療安全対策課 五 月 女 弘 実	
	連携医療部 麻 生 保		

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		診療記録管理部 薬剤部 手術部	カルテ、エックス線写真とも入院・外来を含む1患者1ファイル方式として管理している
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	庶務課	
	高度の医療の提供の実績	医事保険課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事保険課	
	高度の医療の研修の実績	庶務課	
	閲覧実績	庶務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	連携医療部 医事保険課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事保険課 薬剤部	
確規保則の第9条の2及び第1条の11各号に掲げる体制	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全対策課	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染防止対策課	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全対策課	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全対策課	
	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全対策課	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全対策課	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全対策課	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全対策課	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第1条の1	院内感染のための指針の策定状況	感染防止対策課
	1	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染防止対策課
	1	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染防止対策課
	1	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染防止対策課
	掲げる体制確保の状況	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	経理課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	経理課
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	経理課	
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	経理課	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	事務部長 中 田 英 夫
閲覧担当者氏名	庶務課長 影 山 善 久
閲覧の求めに応じる場所	事務部

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医 師	延	0 件
	歯 科 医 師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	47.3 %	算定期間	平成19年4月1日～平成20年3月31日
算出根拠	A:紹介患者の数	17,305	人
	B:他の病院又は診療所に紹介した患者の数	9,774	人
	C:救急用自動車によって搬入された患者の数	3,709	人
	D:初診の患者の数	55,309	人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

規程第9条の23及び第1条の11各号に掲げる体制の確保状況

①専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	①有 (1名)・無
②専任の院内感染対策を行う者の配置状況	①有 (1名)・無
③医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	①有・無
<p>・所属職員：専任（5）名〈専任安全管理者1名含む〉 兼任（2）名</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>組織横断的に院内の安全管理を担う部門として医療安全管理部医療安全対策課を置き、次に掲げる業務を遂行している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療安全管理委員会、医療安全管理委員会リスクマネジャー委員会、リスクマネジャー小委員会及び医療事故対策委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保存、その他医療安全管理委員会等の庶務に関すること。 2) 医療事故防止対策マニュアルの改訂についての企画、原案の作成、各種委員会への提案及び制定に関すること。 3) 医療安全に関する院内パトロールの実施に関すること。 4) インシデント・アクシデント情報の収集、分析と改善策立案に関すること。 5) インシデント・アクシデント情報に関する改善策の依頼、助言、実施及び評価に関すること。 6) 医療安全対策研修会の開催（講習内容・講師選定・運営・まとめ）に関すること。 7) 厚生労働省が推進する医療安全対策ネットワーク事業に伴う、インシデント・アクシデント情報の報告〔報告先：(財)日本医療機能評価機構〕に関すること。 8) 医療安全対策院内広報誌（医療安全対策課広報・毎月1回発行）の発行に関すること。 9) その他、医療安全対策に係る連絡調整に関すること。 	
④当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	①有・無
⑤医療に係る安全管理のための指針の整備状況	①有・無
<p>・指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 安全管理に関する基本的考え方と長期的目標 <p>【基本方針】</p> <p>厚生労働省の基本方針に沿って本院においてもこれを基本方針として取り組みを進めている。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 安全管理のための病院指針の整備 ② 安全管理のための医療事故等院内報告制度の整備 ③ 安全管理のための委員会の定例開催 ④ 安全管理のための職員研修の開催の義務化 <p>【長期的目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 患者様最優先の医療を徹底する。 ② 患者様の満足度を高める医療を行う。 ③ 医療従事者は、常に「危機意識」を持ち業務にあたる。 ④ 医療行為においては、確認・再確認・相互確認等を徹底する。 ⑤ 患者様との円滑なコミュニケーションとインフォームドコンセントに配慮する。 	